

## アイデア & アイデア

# 手作り哺乳子牛用ベッドで寒さ対策

名嘉元 俊二

生後間もない子牛は皮下脂肪が少なく、寒さの厳しい冬場は体温の調節がうまくできないため体調を崩しやすく、下痢や肺炎などの疾病につながるケースが多くみられます。このことは治療の手間がかかるだけでなく、その後の子牛の成長にも大きく影響を及ぼし、酪農家の悩みの種となっています。

子牛を寒い環境から守るには、カウハッチなどの小屋を用意したり、古着を利用したジャケットなどを着せたりなどの防寒対策がありますが、今回は比較的安価で手軽に作ることができる木製の枠を利用した子牛用のベッドを紹介します。

## 材料とつくり方

哺乳子牛用のベッドの木枠は、内のが約80cmの正方形、深さは18～23cmほどです。ふだんの飼育場所に設置して、半分の深さまでもみ殻を入れ、上半分に乾草を入れれば、ふかふかの寝床の出来上がりです。木枠で囲われていることで敷料は散らばることなく、保温効果が期待できる仕組みとなっています。

木枠の材料および製作の例を以下に示します。1個あたり材料費は1000円弱となります。

<例1>長さ320cm、幅23.5cm、厚さ3.5cmの板を1枚。4等分して一角につき2ヵ所をビスで固定。

<例2>長さ180cm、幅9cm、厚さ2cmの板を4枚。82cmの長さに切りそろえ、1辺に2枚ずつ計8枚。4隅に1辺約4cmの角材を補強用に添えてビスで固定。



①内のが約80cmの正方形、深さは18～23cmほど



②半分の深さまでもみ殻を入れ、上半分に乾草を入れる



③寸法は子牛にとってジャストサイズなので、排せつ物はベッドの外に落ちる

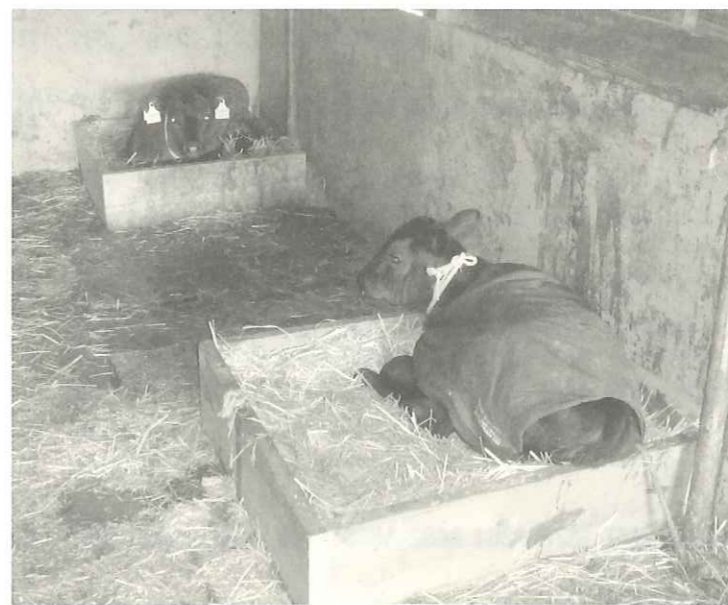
製作のポイントは、子牛にとって小さ過ぎず、大き過ぎない1辺80cmにすること。この寸法が子牛にとってジャストサイズとなり、立ち上がって排せつするとき、排せつ物がベッドの外に落ちるので枠内は汚れずに済むのです。このサイズよりベッドが小さいと、窮屈で居心地が悪くなり、大きいと木枠の中に排せつ物がたまってしまいます。

## メリット

利用者の感想としては「普段の掃除はベッドの外の汚れを片付け、汚れた部分の敷料を補充することで済むので、全部取り替えるのは10日に1度の間隔にできる」「シンプルかつ丈夫なので枠が安定し壊れる心配がなく、枠を持ち上げることで簡単に敷料を総入れ替えすることができる」「牛の体が汚れることが少なくなった」など、病気が減ったこと以上にたくさんのメリットが聞こえてきました。

アイデアを考案したのは千葉県八街市の酪農家小沢忠さん(52)=経産牛44頭、子牛5頭=で、農業共済新聞・千葉県版(2009年3月)などでも紹介されました。以前より子牛の保温のため何かできることはないものかと考えていたところ、パドック内で、山積みされた敷料の一角に好んで寝る牛をテレビで目にして、このアイデアが思い浮かんだとのこと。

木枠のベッドを試したいという農家さんへのアドバイスとして、小沢さんは「2ヵ月から3ヵ月に1度、水洗いして、石灰で消毒するといい」といいます。「ずっと使っているとふん尿



④子牛は好んでベッドに入る

の汚れが原因で子牛がぱたりとベッドに入らなくなることがあるから」と話します。

このように手軽に製作できる子牛の木枠ベッドは、保温性に優れ、衛生的に保つのも容易で、敷料の節約ができるなど、農家にとってうれしい効果がたくさんあります。子牛の疾病を未然に防ぐ快適な環境整備の一つの工夫としてぜひ利用してみてください。

(筆者：千葉県農業共済組合連合会東部家畜診療所)

## アイデア & アイデア